

| | | | | | |
|---|--|--------|------------------------|--------------|------|
| 日本工学院専門学校 | 開講年度 | 2020年度 | 科目名 | 建築設計実習 2 | |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 開設学科 | 建築学科 | コース名 | 建築設計専攻 | 開設期 | 後期 |
| 対象年次 | 2年次 | 科目区分 | 選択 | 時間数 | 60時間 |
| 単位数 | 2単位 | | | 授業形態 | 実習 |
| 教科書/教材 | 資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。 | | | | |
| 担当教員情報 | | | | | |
| 担当教員 | 有田 佳生、山田 裕子 | | 実務経験の有無・職種 | 有 建築設計 一級建築士 | |
| 学習目的 | | | | | |
| 建築の設計は、デザイン力だけではなく建築計画や技術・法規の裏付けがあって成り立っている。建築計画を基本に構造を考え法規を守り、そして施主の意向を取り組んだうえでの設計力が必要になる。座学で学んだ知識と実習で学んだ技術を総合して、自分の作品として仕上げることを目的としている。作品を作るにより、計画や構造、法規、その他技術が設計体験の中で自分のスキルとして身につくことを期待する。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| この科目では、具体的な設計体験を通して住宅設計の計画の大切さを再確認し、法規をチェックすることにより社会における建築の重要性を理解し、構造計算や軸組模型を製作することにより安全と快適性の相反する要素を融合する難しさを学ぶ。それらの要素を総合的にまとめあげる力をつけることを目標とする。 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 授業概要 | この授業では、まず自分で計画を立て、それをもとに法規をチェックし法規に適合した計画にし直す。更に構造計算を行い構造にも適合させる。この一連の作業をすることによりPDCAサイクルを体験し、住宅設計のノウハウを習得する。最終確認として軸組模型を作製する。 | | | | |
| 注意点 | この授業では、教員と学生、学生と学生のやり取りを重視する。まずは人の意見を受けとめることが社会人としてのスキルとなる。また自分で調べ解決する能動的な行動を大前提とする。社会人として自立していくため、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応、理由のない遅刻や欠席は認めない。 | | | | |
| 評価方法 | 種別 | 割合 | 備 考 | | |
| | 提出物 | 70% | 数回の提出物の成果内容を総合的に評価する | | |
| | 出席状況 | 20% | 段階的な理解度としての評価 | | |
| | 平常点 | 10% | 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 授業計画（1回～15回） | | | | | |
| 回 | 授業内容 | | 各回の到達目標 | | |
| 1回 | 壁量計算 | | 壁量計算の実施 | | |
| 2回 | 壁量計算の修正 | | 壁量計算の修正・完成 | | |
| 3回 | 基礎伏図・1階床伏図 | | 基礎伏図・1階床伏図 | | |
| 4回 | 2階床伏図 | | 2階床伏図の作成 | | |
| 5回 | 小屋伏図 | | 小屋伏図の作成 | | |
| 6回 | 軸組図（X方向） | | X方向軸組図の作成 | | |
| 7回 | 軸組図（Y方向） | | Y方向軸組図の作成 | | |
| 8回 | 軸組模型の作成（S-1/50） | | 基礎の作成 | | |
| 9回 | 軸組模型の作成（S-1/50） | | 1階床伏の作成 | | |
| 10回 | 軸組模型の作成（S-1/50） | | 1階軸組の作成 | | |
| 11回 | 軸組模型の作成（S-1/50） | | 2階床伏の作成 | | |
| 12回 | 軸組模型の作成（S-1/50） | | 2階軸組の作成 | | |
| 13回 | 軸組模型の作成（S-1/50） | | 小屋伏の作成 | | |
| 14回 | 軸組模型の作成（S-1/50） | | 垂木の作成、外構の作成 | | |
| 15回 | 図面の修正 | | 模型及び図面提出 | | |